

インタビュー 自由民主党 国防部長 中山泰秀氏 (なかやま やすひで)



◆自衛隊と国防軍の違いとは
なんででしょうか？

防衛や国防の話は、「我々の子供たちの世代や次代の為に、いかに我々大人の世代が資産を継承させるか、国民の伝統・文化を守るために必要な手段の最低限度を整えよう」という根本の思想があります。
この思想で考えれば自衛隊でも国防軍でも、名前の違いが中身の違いにはなりません。防衛という概念に何の違いもないからです。
国防部長の防衛大綱提言を総理に提出しますが、その中には「先制攻撃論」を初めて盛り込みます。東日本大震災直後の混乱期に、日米安保体制が揺らぎ、その隙を中国・北朝鮮・ロシアなどに突かれ、自衛隊が何度もスクランブル発進*をしている事実があるからです。
自然に考えて国内における憲法解釈の議論ではなく、憲法改正という大局観で国を動かす我々政治家は、国家として大枠のベクトルを指し示す事が重要なのです。

◆日米安保体制、米軍と自衛隊の理想とはなんですか？

独立国として自分の国は自分で守るといふのは当然だと思えます。
日米安保は日本が有事の際にはアメリカ軍が守るという条約ですが、アメリカ軍頼みの防衛ではなく、まずは自分の国は自分で守るという大前提がなければ同盟国であるアメリカも我々には手を貸さないとはいえません。
日本とアメリカ、二国間関係を考え直し、もつと緊密な外交を重ねて二国間の関係を強固で揺ぎ無いものと構築していくべきです。
その上で日本が主権国家としての態度を示せば、米軍が友人として「手助けしましょうか？」となる訳です。独立国家同士の防衛の在り方は変化しています。
アメリカが防衛費を削減したり、テロとの戦いなど、新しい戦争の形が問われる中で同盟国としての日本の新しい体制を取ることが重要ではないでしょうか。

◆核兵器保有の議論はその根本を煮詰めなすべき。

原子力発電自体が非核三原則に即さないという議論もありますが、私はエネルギー問題の中で有効な手段として考えるべきだと思います。ただし、日本は広島・長崎を有する唯一の被爆国ですので原子力に敏感な部分も否めません。軍事力として

大きな力を持つ核兵器ですが、核兵器の持つマイナス部分も同じ大きさを持ちます。それをどう理解していくかが大切です。
勇ましく核保有の議論をしようとするはいくらでも出来ず、しかし現実的にはアメリカとのパートナーシップをどう構築していくかという事も大切です。
核保有の議論はその根本を煮詰めたおすべきだ、というのが私の意見です。「是か否か？」の膠着論こそ、他国の思うつぼです。

◆今回の防衛大綱に記載する先制攻撃論とは？

軍隊としてのステージを上げて行き、軍事大国だと相手に思われて、初めての抑止力だと思えます。
使用前提がなければ高性能兵器も宝の持ち腐れになります。持っているだけで、相手を威嚇できるのはこちらから攻撃するかもしれない前提があつて初めて成立するのです。武器を持つていて使わないという事も抑止力だと言われてしまえば



◆核保有について日本の核兵器保有と理想とは？

日本が現実的に核兵器を保有するのは大変難しいと考えます。
しかし、日本は広島、長崎で多大な犠牲を出した、唯一の核被爆国であるからこそ核兵器を持つ資格があるのではないかと、という観点での議論をするべきです。
中国共産党の機関紙に沖縄までの領有権を主張したりする社説が出る一連の動きは、中国政府の思惑と見るのが自然です。
核兵器を持つ場合のメリット・デメリットは何か、開発期間や費用など、本質の議論を行うべきです。
日本が核兵器保有の議論を活発にすれば国際社会が敏感に反応するはず。故・中川昭一先生が北朝鮮の核問題に触れて「日本も核保有を考慮すべきだ」と発言したとき、アメリカのライス国務長官が即、来日し、日米安保条約の下、アメリカはその核の傘で日本を守るといふことを改めて確認しました。

その議論は終りです。
世界は今、戦争という最悪のリスクをいかに回避できるかという観点で軍縮へ向かっています。

中山氏からの提言①
広島に国連本部を

被爆地である広島に国連本部機能を誘致して核保有の問題や核軍縮議論や平和構築などを議論できる場所を提供していく事も大事だと思えます。

核武装している中国はアジア国連本部になれません。中国に嫌悪感のある国も参加しないでしょう。オバマ大統領もノーベル平和賞などで核軍縮を訴えている今こそ、そうした声を上げるべきなのです。

中山氏からの提言②
徴兵制よりも徴学制

日本をアジアの中立国にしたいと考えています。
ヨーロッパのスイスは国連の安全地帯に指定されていますので、周辺有事の際は安全地帯として使える国なのです。もつとと言うと徴兵制ではなく人材の徴学制をやりたい。

国が国費で学生を徴用して留学させて国際感覚豊かな人材を育て、国際社会の中で日本がどう生きていくのかを考えさせたいです。
「愛国者、国を滅ぼす」と言います。愛国心は強制的にできません。環境を作つて愛国感情を育てる、そうして初めて湧き出る水の如く、出てくるのが愛国心。
自分でそれを作れる環境を子供達に与える方がいいと思います。

明らかに、アメリカも世界も日本の核兵器保有を恐れているので、こういった議論を進めることは他国に侮られないために肝要です。核を持つ事によつて生まれる抑止力を持つことは国防上深い意味があるのですから、日本なりの主張を続けなければなりません。
今後5年間、韓国・パク・クネ大統領は親中路線に傾くでしょう。
10年続く中国の周近平(しゅうへい)さん(ペイ)政権が膨張路線を展開して、今よりもつと日本に圧力をかけてくることは分かります。
そして4年間、海外の問題にはできるだけ巻き込まれたくないという意思の第二次オバマ政権という体制の中で、日本を取り巻く難しい環境を、どのように国家として乗り切っていくかが問われています。
唯一の被爆国であり、世界中でどの国よりも核兵器の悲惨さを知っている日本だからこそ、核兵器の保有を論ずる権利も国防力を高める必要も日本にはあると強く発信しつづけることが大切なのです。

インタビュー ジャーナリスト

櫻井よしこ氏 (やぐら よしこ)

◆国防軍の是非と理想とは？

戦後の日本が失った能力のひとつが国防の能力です。モナコやルクセンブルクなどの小国ではない、日本のような経済大国に、憲法上も法律上も軍隊が無いとされていること自体おかしいのです。
軍隊が無い事が普通になつてしまつた事は、本来異常事態です。一日も早く憲法改正を行い、警察法から離れて軍隊法を制定すべきです。まだまだ勉強の足りなかつた昔の私もそうでしたが、現在の政府にはためらがあるのか、日本人の精神性なのか、敗戦の後遺症なのか、国防軍のように「防」の文字を残さないといけないと思つている方が多い。国軍でよいのです。
軍事力は、国家にとって政治的にも重要な意味を持ちます。
自主独立に欠かせません。

◆国防軍になつた場合「徴兵制」は必要でしょうか？

非常事態を除けば、徴兵制なしに日本の為に働きたいという人を募集していけばいいと考えます。
自衛隊の隊員数は周辺国に比べて少なく、中国や韓国はもろろん、ベトナムよりも下回ります。
今まではアメリカ軍が守つてくれるという前提に基づき、様々な事を議論し制定してきました。
しかし、政権二期目のオバマ大統領は内向き志向が強く、サリンガスの使用が分かつているシリアにも介入したがりません。
北朝鮮の核問題もなぜか話し合い路線を取ろうとしています。
世界の紛争に関わりたくないのです。今後、日本は本場の意味で自衛できる力を持たないといけません。



櫻井よしこ (さくらい よしこ) YOSHIKO SAKURAI

プロフィール
ジャーナリスト
公益財団法人

国家基本問題研究所理事長
クリスチャンサイエンスモニター
紙 東京支局の助手として
ジャーナリズムの仕事を始め、アジア新聞財団 DEPTH NEWS 記者、東京支局長、NTVニュースキャスターを経て、現在に至る。2007年にシンクタンク、国家基本問題研究所を設立し、国防、外交、憲法、教育、経済など幅広いテーマに関して日本の長期戦略の構築に挑んでいる。

著書
「日本の決断」
2013年 新潮社 他多数



Quiz V 武力等に使われている「武」という漢字、由来となる本来の意味は意外なものなのですが、それは次のうちどれでしょうか？
1. 戦う 2. 止める 3. 守る
答えは13ページ